

2019. 1. 25

2019年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 11月に「道北地域の景気は、基調としては緩やかに持ち直しており、北海道胆振東部地震の影響による下押し圧力は緩和を続けている」と判断をやや引き上げましたが、先月に続き、今月もその判断を維持しました。
- 公共投資は災害復旧工事の一巡から減少しているほか、住宅投資も減少しています。個人消費もやや弱めの動きとなっています。一方、地震後に風評被害を被った観光は持ち直しの動きを続けています。
- 雇用面では、労働需給が引き締まっており、金融機関の貸出も前年より増加しています。
- なお、先月まで、海外客の減少が長期化する懸念について、言及していましたが、海外客の減少幅も縮小傾向にあると思われ、懸念も薄らいだとみて、記述を落としました。

■個人消費の動向

- 12月の大型店売上高は、前年を下回りました。土日祝日の休日数が今年は前年より1日多かったのですが、この冬は寒くなるタイミングが例年より遅く、12月も平年より気温はやや高め（旭川市の平均気温で平年比+0.7度）となったことなどが、季節商品の売り上げ等に影響した可能性があります。もっとも、この間、道北地域も、旭川市も、地震・停電後の10月から、11月、12月と前年比マイナス幅の縮小が続きました。
- 12月の新車登録台数は、軽自動車は前年を上回りましたが、除く軽では前年を下回り、全体でも3か月振りに前年比マイナスとなりました。普通乗用車で一部、目先のモデルチェンジを控え、新型車待ちの様子も窺えたとの声

もありました。

■観光の動向

- 観光は、北海道胆振東部地震の風評被害から持ち直しています。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、12月はすべての空港で前年を上回り、全体で2か月連続の前年比プラスとなりました。このうち旭川空港では、国内線が前年を上回り、国際線は、定期便がなかったもののチャーター便による旅客数が多かった昨年と同水準になりました。
- ホテル・旅館宿泊者数は、12月、施設の耐震工事に伴い客室減少が生じた先の影響もあり、前年を下回りました。この間、旭川市内では、ふっこう割の効果を楽しめたとの声もありましたが、市内全体のホテル客室稼働率は前年を若干下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、12月、層雲峡地区で前年を下回ったほか、ウトロ温泉が前年を若干下回りましたが、入園者のウェイトの大きい旭山動物園（速報値）が前年を大きく上回ったことに加え、網走監獄、利尻・礼文フェリーも前年を上回ったことから、全体でも前年を1割強上回りました。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、12月、オホーツク地区が前年を上回ったものの、上川地区が大幅減となったほか、宗谷地区も前年を下回り、全体でも3か月振りに前年を下回りました。4～12月の累計でも、宗谷は前年を上回りましたが、上川、オホーツクは前年を下回り、全体でも2桁の前年割れが続いています。もっとも、四半期の動きをみると、10～12月は前年を1%程度下回るにとどまり、1～3月以降3期続いた前年比2桁減少から減少幅を縮めています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、11月、持家、貸家、分譲とも前年を下回り、全体でも、6か月振りに前年を上回った10月から、再び前年比マイナスとなりました。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、11月、3総合振興局において3月以来8か月振りとなる大幅な前年比増加となりました。また、旭川市においても6か月振りとなる前年比増加で、前年比7倍を超える著増となりました。このため、四半期ベースでみると、3総合振興局全体で18年7～9月期まで4四半期連続の前年比2桁マイナスであったのが、10、11月を括ると、その期の前年比がプラスに浮上する形です。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。11月の有効求人倍率は、旭川で前年を上回ったほか、稚内、北見、網走では前年を下回りましたが、いずれも1.3倍前後の高い水準にあります。また、11月の新規求人数も、稚内を除く旭川、北見、網走で前年を上回りました。

■今後のポイント

- 道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①観光が、北海道胆振東部地震後の風評被害について、かなり持ち直してきていますが、ふっこう割の制度終了後も集客を伸ばせるかどうか、今春の10連休の予約状況等をフォローしていきたいと思います。また、②予想される災害復旧工事等の発注についても、人手不足感が高まる中、建設業者の受注動向に留意したいと思います。このほか、③短観に見られた企業の業況感悪化の設備投資意欲への影響や、④地震、農作物の不作等に加え、年始の金融・為替市場等の波乱

など、昨秋から相次いでいる消費マインドへの下押し圧力の影響にも、注目していきたいと思います。

以 上